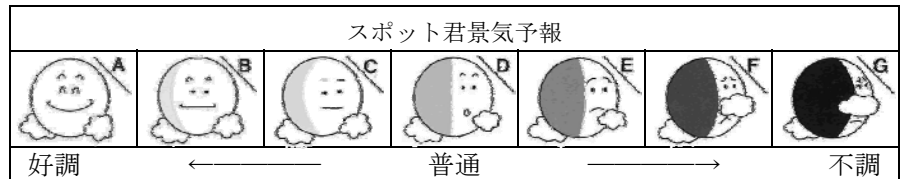


## 2. 目黒区内中小企業の景況（平成 26 年 10～12 月期）

### （1）今期の特徴点



### 製造業



製造業の主要指標をみると、業況は△16.6 で前期比 1.4 ポイント減と前期並となった。売上額は△10.6 で 1.4 ポイント増、受注残は△9.1 で 0.7 ポイント増となり、いずれも前期並で推移した。収益は△15.3 で 3.3 ポイント減とわずかに悪化した。来期の見通しについては、収益は今期並となるものの、売上額・受注残がいずれも幾分悪化すると予想されており、業況はやや悪化する見込み。

価格動向については、販売価格は△7.5 で 3.1 ポイント減とわずかに下降幅が拡大した一方、原材料価格は 29.5 で 10.5 ポイント増と大幅に上昇が強まった。在庫は 6.8 ポイント増の 4.9 と在庫過剰に転じた。来期の見通しについては、原材料価格はかなり上昇幅が縮小、販売価格はやや下降幅が縮小し、在庫は幾分過剰感が緩和する見込み。

資金繰りは△14.8 で 2.2 ポイント減と幾分厳しさが増した。借入難易度は△11.1 でやや苦しさが強まり、借入をした企業は 17.5% で 2.1 ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 5.1% で前期と同水準となった。来期の見通しについては、資金繰りは△14.1 と今期並となり、借入をする企業は 14.6% とやや減少し、設備投資を実施する企業は 7.2% でわずかに増加する見込み。

経営上の問題点は、1 位は「売上の停滞・減少」で 48.0% となった。2 位は「利幅の縮小」で 28.6%、3 位は「同業者間の競争の激化」で 25.5% となった。重点経営施策では、1 位は「経費を節減する」で 55.1% となった。2 位は「販路を広げる」で 52.0%、3 位は「新製品・技術を開発する」で 12.2% となった。

### 卸売業



卸売業の主要指標をみると、業況は 2.1 ポイント増の△3.2 とわずかに改善した。売上額は 7.2 ポイント減の△5.2 となり、5 期ぶりに悪化に転じた。収益は△12.4 で 4.3 ポイント減と幾分悪化した。来期の見通しについては、収益がやや改善するものの、売上額及び業況は幾分悪化する見込み。

価格動向については、販売価格は 5.1 で 3.1 ポイント減とやや上昇幅が縮小した一方、仕入価格は 7.5 ポイント増の 21.5 と大きく上昇幅が拡大した。在庫は 7.1 ポイント増の 6.5 となり、在庫過剰に転じた。来期の見通しについては、販売価格は今期並の上昇が続き、仕入価格は大きく上昇傾向が弱まり、在庫は適正水準となる見込み。

資金繰りは△6.8 で 1.9 ポイント減とやや厳しさが増した。借入難易度は 11.7 ポイント減の 4.3 と大幅に悪化し、借入をした企業は 17.9% で 7.1 ポイント減少した。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 3.6% と 3.5 ポイント減少した。来期の見通しについては、資金繰りは△5.0 とやや厳しさが和らぎ、借入をする企業は 14.3% と幾分減少する見込み。設備投資をする企業については 3.7% と今期並の水準で推移する見込み。

経営上の問題点は、1 位は「売上の停滞・減少」で 46.4% となった。次いで 2 位は「同業者間の競争の激化」で 35.7%、3 位は「利幅の縮小」で 25.0% となった。前期の 1 位と 2 位が入れ替わった。

重点経営施策は、1 位は「販路を広げる」で 57.1% となった。次いで 2 位は「経費を節減する」で 46.4%、3 位は「新しい事業を始める」と「品揃えを充実する」で 17.9% となった。

## 小 売 業



小売業の主要指標をみると、今期の業況は $\Delta 19.0$ で7.6ポイント増と大幅に改善した。売上額は $\Delta 14.7$ で6.5ポイント増と大きく改善、収益は $\Delta 20.3$ で4.9ポイント増と幾分改善した。来期の見通しについては、売上額がやや改善、収益が大きく改善し、業況は今期並で推移する見込み。

価格動向については、販売価格は2.7ポイント減の4.7とやや上昇幅が縮小した。仕入価格は18.4で2.3ポイント増とわずかに上昇幅が拡大した。在庫は2.5ポイント減の $\Delta 1.5$ と、過剰から品薄へと転じた。来期の見通しについては、販売価格は0.5とやや上昇幅が縮小、仕入価格は11.5と大きく上昇傾向を弱め、在庫は $\Delta 2.4$ となり今期並の不足感が続く見込み。

資金繰りは $\Delta 32.7$ で5.7ポイント減と大幅に厳しさが増した。借入難易度は2.1ポイント増の $\Delta 2.6$ と若干窮屈感が緩和し、借入をした企業は7.7%で1.9ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資をした企業は6.0%で2.2ポイント減少した。来期の見通しについては、資金繰りは $\Delta 27.6$ とわずかに厳しさが和らぐが、借入をする企業は3.8%と若干減少し、設備投資をする企業は2.0%とわずかに減少する見込み。

経営上の問題点については、1位は「同業者間の競争の激化」で46.2%となった。次いで2位は「売上の停滞・減少」で42.3%、3位は「大型店との競争の激化」で30.8%と続いた。前期1位だった「売上の停滞・減少」は17.3ポイント減少して2位となった。

重点経営施策では、1位は「品揃えを改善する」で48.1%となった。次いで2位は「経費を節減する」で46.2%、3位は「宣伝・広告を強化する」で25.0%となり、前期から1位と2位が入れ替わった。

## サービ ス 業



サービス業の主要指標をみると、今期の業況は $\Delta 1.2$ で7.7ポイント増と大きく改善した。売上額は11.7ポイント増の5.7と、3期ぶりに増加に転じ、収益は7.1ポイント増の $\Delta 1.1$ と大幅に改善した。来期の見通しについては、売上額がわずかに悪化するものの、収益は今期並となり、業況も今期並で推移する見込み。

価格動向については、料金価格は6.0ポイント増の4.9となり、2期ぶりに上昇に転じた。材料価格は21.2で1.7ポイント増と若干上昇幅が拡大した。来期の見通しについては、料金価格は0.5でやや上昇幅が縮小し、材料価格は9.3ポイント減の11.9と大きく上昇幅が縮小する見込み。

資金繰りは、 $\Delta 10.6$ で6.7ポイント減と大幅に厳しさが増した。借入難易度は3.9ポイント増の0.0とわずかに窮屈感が弱まった。借入をした企業は15.3%で5.5ポイント増加した。設備投資動向については、設備投資をした企業は14.5%で2.4ポイント増加した。来期の見通しについては、資金繰りは今期並の厳しさが続くものの、借入をする企業はやや減少、設備投資をする企業はわずかに減少する見込み。

経営上の問題点は、1位は「同業者間の競争の激化」で52.5%、2位は「売上の停滞・減少」で30.5%、3位は「利幅の縮小」で16.9%となった。

重点経営施策では、1位は「経費を節減する」と「販路を広げる」が同率の47.5%で並んだ。2位は「宣伝・広告を強化する」で23.7%、3位は「教育訓練を強化する」で13.6%となった。

# 建設業



建設業の主要指標をみると、業況は 11.1 で 2.5 ポイント増とわずかに改善した。売上額は 13.8 で 1.1 ポイント増、収益は 8.1 で 0.8 ポイント減となり、いずれも前期並となった。施工高は 19.8 で 1.8 ポイント増と幾分改善、受注残は 18.0 で 7.7 ポイント増と大きく改善した。来期の見通しについては、売上額、施工高、収益はいずれも幾分改善、受注残は大幅に改善し、業況はわずかに改善する見込み。

価格動向については、請負価格は 6.5 ポイント増の 14.0 と上昇幅が拡大し、材料価格は 1.7 ポイント増の 51.0 とわずかに上昇幅が拡大した。在庫については  $\Delta 1.6$  で 1.2 ポイント増と前期並の不足感が続いた。来期の見通しについては、請負価格は今期並の上昇で推移する一方、材料価格は大きく上昇幅が縮小する見込み。

資金繰りは、 $\Delta 1.7$  で 14.2 ポイント増と大幅に厳しさが和らいだ。借入難易度は 14.7 ポイント増の 12.1 と 2 期ぶりにプラスに転じ、借入をした企業は 1.3 ポイント増の 23.8% で前期並の水準だった。設備投資動向については、設備投資を実施した企業は 4.8% で 2.2 ポイント増加した。来期の見通しについては、資金繰りは 6.0 と窮屈感を脱し、借入をする企業は 11.9% と大きく減少するとみられる。設備投資を実施する企業はわずかに減少し 0.0% となる見込み。

経営上の問題点は、1 位は「同業者間の競争の激化」で 38.1% となった。次いで 2 位は「人手不足」で 31.0%、3 位は「材料価格の上昇」で 28.6% となった。

重点経営施策は、1 位は「販路を広げる」で 47.6%、2 位は「人材を確保する」と「経費を節減する」が同率の 42.9% で並んだ。3 位は「技術力を高める」で 16.7% だった。前期 1 位だった「経費を節減する」は 17.1 ポイント減少した。

各業種別業況の動き（実績）と来期の予測

